

勝高新聞が新たに復活 / 勝高新聞NEO



「勝高新聞」は、1958年（昭和33年）12月25日に創刊、1997年（平成9年）124号まで発行されました。これらは、現在も『創立五十周年記念 勝高新聞復刻版』（平成9年発行）として残っていますが、とても興味深い記事が多く、「勝高新聞」を復活させる意義を感じていました。

令和2年春、遂に「勝高新聞」が復活の運びとなりました。新名称は「勝高新聞NEO」。創刊号の熱い思いに負けないよう、勝高生だけでなく、保護者、OB、地域の方々にも親しまれる新聞を目指します。

また、これから高校進学を目指す中学生の皆さんの情報源として、参考にしてもらうことも期待してやみません。

「勝高新聞NEO」は市内の中学校に配付するほか、各公民館と市内数か所に掲示していますので、お立ち寄りの際はぜひお読みください。

岡県立勝山高校 ☎88-0200



勝山高校コラム
『ひびきは空に ~まこと真・誠・信~』

かっちゃんま 創生プランを 発表

7月29日、勝山高校で「かっちゃんま創生プラン」生徒発表会が開催されました。

この発表会は、入学から3年間を通じて行われる地域を探究する総合学習「勝山人」のなかで、3年生が自身の活動をまとめた「かっちゃんま創生プラン」を市への提案として発表する場です。

今年の3年生が選んだテーマは主に「観光」「環境」「行政」「医療福祉」の4分野で、全員が23グループに分かれ、各教室で入れ替わりながら発表しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、休業期間中は総合学習ができなかったため、プランの提案まで進められなかったグループもありましたが、過程を発表することが大事と生徒たちは前向きに取り組みました。

発表を聞いたのは、同校の1・2年生に加え、山岸正裕市長をはじめとする各専門分野のアドバイザーで、発表後の質疑応答ではアドバイザーからの鋭い質問にも生徒たちは的確に答え、自分たちの取り組みんできた学習について説明していました。

発表を終えて

発表を終えた3年生に感想を聞くと「発表は緊張しましたが、説明はうまくできたと思います。3年間学習を続けてきて、いろんな勝山の姿が見えましたが、課題を解決することの難しさを感じました」と話しました。

また、総合学習については「外来種駆除について取り組み、セイタカアワダチソウが食べられると聞き、実際に調理して食べてみたりしました。実践的な調査ができたのは、いい経験になりました」と感想を話しました。



山岸市長もアドバイザーとして参加

後輩たちの感想

「発表を聞いてみると、調べるということが楽しそうに感じました。自分も頑張ろうと思いました」

別田祥太さん（1年）

「来年度に向けて、参考になりました。観光客など、外から見る人の目線になって考え、勝山にいいイメージを持ってもらえるような案をたくさん考えていきたいです」

原田優梨菜さん（2年）

ご協力に感謝

今年の発表会は、市長様をはじめとするアドバイザーの方々の他に、地域の方々にも見学に来ていただくことができました。例年以上の来場者（48人）で、非常に賑やかな発表会となりました。

今後も地域の方々に勝高の取り組みを知っていただけるよう取り組みで参ります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

校長 山崎良成

タブレット端末の寄贈に感謝

勝山高校同窓会東京支部の岸下武雄さんから「ICT推進に役立ててほしい」とiPad39台を寄贈いただきました。

iPadは、8月3日に同窓会本部の木



下克則会長（写真右）から山崎校長に手渡されました。今後は、生徒の学習活動などに有効活用していく予定です。